

一般研究集会（課題番号：28K-01）

集会名：平成 28 年度 自然災害に関するオープンフォーラム『『自然災害の避難学』構築を目指して』

主催者名：日本自然災害学会・静岡大学防災総合センター

研究代表者：岩田孝仁

所属機関名：静岡大学防災総合センター

所内担当者名：寶 馨

開催日：平成 28 年 9 月 22 日

開催場所：静岡県地震防災センター

参加者数：91 名（所外 82 名，所内 9 名）

・大学院生の参加状況：9 名（修士 7 名，博士 2 名）（内数）

研究及び教育への波及効果について

近年、全国各地で大規模な気象災害が発生しており、今後もさらなる極端気象の増加が警告されている。広島
の土石流災害をテーマに、それぞれの専門分野の研究者が様々な角度から研究を行った成果は、今後の気象災
害や防災の研究、教育プログラムに活かされることが期待される。また、市民の防災に対する関心も高まって
いる。実際に現場で被災者と向き合っているゲストも交えて、研究者と共にわかりやすく実態を解明
することで、行政（消防・警察等を含む）担当者はもちろん、地域で自主防災活動をしている多くの一般市民
が、今後の防災活動のヒントを得ることができたと思われる。

研究集会報告

(1)目的

2014 年の広島豪雨災害では、短時間豪雨により土石流災害が発生し、死者 75 人の甚大な人的被害が発生した。そこで、平成 27 年度の文部省科学研究費補助金（特別研究促進費）において実施した「2014 年 8 月豪雨により広島市で発生した土石流災害の実態解明と防災対策に関する研究」（研究代表者：山口大学農学部教授・山本晴彦）で得られた研究成果の一部を報告してもらい、専門家による最新の研究成果を市民にわかりやすく伝えるとともに、パネルディスカッションにより、今後の課題と対策について市民とともに議論することを目的としたものである。

(2)成果まとめ

研究者が、気象、地質、教育、地域づくりといったそれぞれの専門分野から、独自の切り口で災害の実態解明をおこなった。

また、パネルディスカッションでは、今回の災害は決して特殊なものではなく、どこの地域でも起こりうることで、最新の情報をいかに入手して避難行動に結びつけるのかを、気象と地質、地域活動の面などから話し合った。また、防災リーダーの育成や子供たちの防災教育の必要性、行政の対応や被災地で必要なことは何かなど、今後の街づくりの課題についても意見を交わした。会場からの質問用紙は 50 枚以上集まり、市民の防災に対する関心の高さがうかがえた。

(3)プログラム

9:30~9:40 開会挨拶&趣旨説明 牛山素行（実行委員長・静岡大学教授）

【講演】

9:40~10:40 基調講演「避難の心理学 ―リスクの情報／情報のリスク―」

10:40～10:50 休憩

10:50～12:30 パネルディスカッション『『自然災害の避難学』構築を目指して』

コーディネーター：牛山 素行（静岡大学防災総合センター・教授）

パネリスト：金井 昌信（群馬大学大学院・准教授）

関谷 直也（東京大学大学院・特任准教授）

秦 康範（山梨大学総合研究部・准教授）

廣井 悠（東京大学大学院・准教授）

矢守 克也（京都大学防災研究所）

(4)研究成果の公表

自然災害学会の学会誌「自然災害科学」において、特集号と別冊として本研究成果を公表する予定である。